

a 学校教育目標	学び、高め合い、認め合う大和中生 ～夢や目標を抱き、地域・社会に貢献する 生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を持つ生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 夢を抱き、基礎基本を身に付け、心豊かで郷土から頼りにされる生徒の通う学校
----------	---	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善方針	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント		
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ			
確かな学力	①基礎・基本の定着を図るため、授業改善を推進する。 ②学習意欲を高めるため、学習習慣を身に付ける。	・研究授業及び研究協議会を通して全教科の授業力向上に努める。 ・標準学力調査の正答率40%未満の生徒への個別指導を月に2回以上取り組む。 ・定期試験前、各教科から学習内容を示して自主学習ノートに取り組ませ、家庭での学習習慣の定着を図る。	○授業がよくわかるという生徒アンケートの肯定的評価 ○2月2日の個別指導実施	80%	88%	90.7%	78%	C	・生徒アンケート「授業はよくわかります」の肯定的評価は全教科平均90.7%。研究授業・研究協議会12回実施。 ・2月2日の個別指導実施率は年平均43%。4月・5月臨時休業、8月夏季休業を除き、6月7月に昨年度標準学力調査の正答率40%未満の生徒への個別指導を放課後2回以上実施。9月は夏季休業中の課題未提出者を対象として実施。10月以降は日課・下校時刻の変更等で時間を確保できず未実施。	・研究授業・研究協議会を継続し、加えて「授業見合おう週間」での教職員の学びを授業改善に生かす。 ・個別指導の時間確保。生徒の課題・ニーズに応じた内容と方法を検討し、学力向上を図る。	3			・生徒が落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・授業理解度の肯定的評価が高いのは先生の指導の成果だと思ふ。 ・ICTを工夫し、コミュニケーション能力、自己表現の力を付けてほしい。 ・意見を話し合える活発な授業が年々定着している。		
			○自主学習ノートの取組が定着した生徒の割合 ○自主学習に取り組んで成果を感じるという生徒アンケートの肯定的評価	80%	80%	77.3%	96%	B	・生徒アンケート「毎日の家庭学習(自主ノートなど)に取り組んでいます」の肯定的評価77.3%。生徒アンケート「家庭学習(自主ノート)などの成果を感じます」の肯定的評価75.6%。 ・小テストに向けて自主ノートの内容を工夫して家庭学習をする生徒の姿が見られる。定着の割合と成果を実感する割合がほぼ同じで、未定着の生徒への対策が必要。	・教科担当が、次の定期試験までに取り組むとよい内容・学習方法を示すことで家庭学習に係る指導を行い、授業と家庭学習の接続を図る。 ・授業と家庭学習の接続、定期試験に向けた家庭学習指導によって、より成果を実感できるようにし、家庭学習の定着を図る。	3			・班活動、教え合いきめ細かく指導している。自ら学ぶ生徒を育成してほしい。 ・コロナ禍で難しかった個別指導の時間を、次年度は確保してほしい。		
豊かな心と健やかな体	①生徒理解に努め、生徒支援委員会を充実させる。 ②思いやりの心を育む道徳教育を充実させる。 ③心身の健康を維持するため、体力づくりや食育を推進する。	・いじめアンケートの実施後に、個人面談週間を実施して生徒理解に努める。 ・SCと連携し教育相談の体制や取組を充実させる。 ・協働的な学び合いの場を仕組むなど、考え、議論する道徳科の授業を進める。 ・複数の教員で授業をするなど、指導方法の工夫を図る。 ・保健体育科の授業や部活動、学校行事において運動に親しむ態度を育成し体力の向上を推進する。 ・「自分で作るお弁当の日」の取組を通して食に対する関心を高め、感謝の心を育む。	○学期1回のアンケートと個別面談実施 ○週1回の生徒支援委員会実施	100%	100%	100%	100%	A	・いじめアンケートとそれに関する個人面談を4回実施(6月9日12月2月)。課題については管理職と連携し、生徒指導主事を中心としていじめ防止委員会等で組織的に取り組んだ。 ・生徒支援委員会を概ね毎週、年32回(1月末現在)実施し、SCからの助言を取組に生かした。SCによる全生徒対象の面談を計画的に実施するなど、多角的な生徒理解に努めている。	・今後もいじめアンケートや観察等に基づき、全員に個人面談を実施し、実態把握と早期解決に努める。 ・今後も委員会を時間的に位置づけ、情報共有、協議の場をもつことで、全教職員での情報共有に努める。引き続きSCと連携し、教育相談体制を充実させる。	3			・一人一人大切に面談をして生徒の実態把握に努めている。 ・例年自己肯定感の低さが課題であったが、次第に肯定的評価が上がってきている。生徒は校内でも挨拶をしてくれている。取組が生徒の自信につながっていると思ふ。		
			○自己肯定感についての生徒アンケートの肯定的回答	90%	81%	78.5%	2項目平均	2項目平均	87%	B	・生徒アンケートの肯定的評価は、「自分にはよいところがある」75%(年度当初)→70%(12月)、「自分の良さがまわりの人から認められている」69%(当初)→78%(12月)。 ・全ての道徳科授業で対話や交流の場を仕組み、協働的な学びを進めている。 ・複数教職員での授業づくりや、生徒実態に応じた指導法の工夫(考え議論する仕組みなど)を行い、主体的な学びにつなげている。	・学び合いの質を高めているよう、生徒実態に応じて考え議論する仕組みづくりの工夫改善を進める。授業者が替わっても生徒が主体的に進められる基本スタイルを確立・共有する。 ・これまで積み上げてきた取組の中で無理なく続けられるものを精選し、今後も多様な指導方法を取り入れた授業を行う。	3			・お弁当の日のアンケート結果から保護者への感謝の気持ちがかかる。今後取組を工夫してほしい。その取組に対しては保護者へのようにつなげる工夫が期待できる。
			○「自分で作るお弁当の日」に係る感謝の心についてのアンケートの肯定的回答	100%	-	89.4%	99%	B	・総合評価ABの生徒75.9%。48項目中38項目で全国平均を上回った。全国平均を下回っていた2年生女子20mシャトルラン、3年生20mシャトルランといった走種目や瞬発系に課題がある。 ・全種目(全項目)で全国平均以上を達成できておらず、自己の体力をどのように向上させていくか課題意識を持たせることが必要。 ・「自分で作るお弁当の日」を10/19に実施。「作る苦労や楽しさを体験することで、感謝の心を持つことができた。」に対する肯定的評価89.4%。	・体育の授業の導入において、走種目や瞬発系を強化するサーキットトレーニングを実施する。 ・新体力テストの結果を、授業や部活動、学校行事の取組に生かしていく。 ・当日までに関心を高める取組を行う(教科で扱う、図書整備等)。また、自分のレベルに応じた目標を設定できるように、段階的な目標を提示することで達成感を得やすくする。	3					
信頼される学校	①園・小・中連携を充実させる。 ②地域に貢献する体験活動や自治活動を推進する。 ③業務改善を行い、働き方改革を進める。	・大和3部会で園小中の連携を図り、12年間を見通してつなぐ力を部会で共有し、つなぐ力の定着に取り組む。 ・自分たちが生活しているふるさと大和町における地域貢献活動に取り組む。 ・地域からのボランティアの要請に対し、生徒会から参加を呼びかける。 ・自分たちが生活しているふるさと大和町における地域貢献活動の実施 ○生徒会からボランティア参加の呼びかけ実施 ○年3回地域貢献活動の実施 ○市内ボランティア募集の仕組みについて社会福祉協議会と連携し、生徒会執行部から全生徒に情報提供とボランティア呼びかけを実施。	○各部会のつなぐ力についての生徒アンケートの肯定的評価	80%	80.5%	77.3%	6項目平均	6項目平均	97%	B	・各部会の今年度の取組のまとめを、次年度の園小中共通の取組に生かす。 ・家庭学習の定着について、小学校と連携して取り組む。	3			・小中とも家庭での学習習慣定着を大切に、自ら学習する姿勢を身に付けてほしい。 ・梅雨後2時以降まで忙しい、学習時間を確保するの難しい生徒がいるのではないかと、学校で時間の使い方を指導していくとよい。	
			○時間外勤務が月45時間以内の職員の割合(年平均)	60%	70%	67.9%	100%	A	・大和支所、地元事業所と農家、JA等と連携し、総合的な学習の時間に地域貢献の取組を実施(1年白ネギPR給食・キャラクター考案、2年地元特産物使用商品販売、事業所へ花寄贈、3年こども園・小学校での清掃活動) ・市内ボランティア募集の仕組みについて社会福祉協議会と連携し、生徒会執行部から全生徒に情報提供とボランティア呼びかけを実施。	・生徒が主体的に地域につながっているよう、情報収集や関係機関(大和支所・社会福祉協議会等)との連携を進める。 ・校内外のボランティア情報を適宜生徒会に伝え、日頃から関心を持たせ、地域に目を向けさせながら、社会に貢献できる生徒の育成を目指す。	3			・地域に学ぶ学習は自己肯定感の育成に直結しており、自分を知る機会になると思ふ。 ・地域を大切にすることが進んでいくとよい。 ・タブレットPCを試験等に活用することで、生徒の回答の理解度、課題が瞬時に把握でき、職員の働き方改革にもつながると思ふ。		
			○週2日の部活動休養日の実施	95%	100%	100%	100%	A	・時間外勤務45時間以内の職員の割合(10ヶ月平均)67.9%。 ・臨時休業日を除く期間において、平日1日(水曜日)、土日いずれかを学校全体の部活動休養日に設定し、すべての部活動で100%実施。	・日課、下校時刻を変更し、時間外勤務の軽減を具体化する。 ・教頭と働き方改革担当者が、各教職員に時間外勤務の月途中と月累計の状況を伝え、業務の効率化を促す。 ・部活動休養日を学校全体で設定し、見直しをもって顧問と連携する。	3					

【j:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(<できない)<60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。  
ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。